



キャッチ通信



第54号 令和6年1月発行

旧年中の活動へのお礼と新年のごあいさつ

総合相談支援センターキャッチ 理事長 高尾 一弘

寒さの中にも春の訪れを感じる頃となりました。

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度は、コロナウイルス感染症の動向に気を配りながら、キャッチの業務を進めてまいりましたが、世間の読み通りに感染拡大の大きなうねりは起こらず、何とか予定の活動を消化しながら年度一年が過ぎようとしています。

また令和五年度は年間を通し物価高騰が私たちの生活を直撃し、いまだに安定感のない生活から抜け出すことができない毎日が続いています。このような現状は、生活の変化に弱い障害者の方々にも大きく影響し、一生懸命に働いても物価上昇のため生活費が窮屈となり、その経済的不安から生活のリズムが崩れ、体調を壊される方々も目立っていました。生活困窮者の方々には、臨時手当を支給するだけでなく、主たる生活資金である障害基礎年金等の抜本的な見直しを行ない、安定的な生活を早々に取り戻してもらう必要があると考えます。

話題は変わりますが、私たちキャッチでは、障害のある人もない人も、共に生きる街づくり、地域づくりを目指し、地域の理解と共感を広げていくための活動を、より一層推し進めたいと考えてきました。令和三年度には「2016年7月神奈川県立の知的障害者福祉施設 津久井やまゆり園にて発生した事件」を取り上げ、「重度障害者の方の人としての尊厳、権利擁護」を考える講演会を開催しました。この講演会の反響は想像以上に大きく、鳥栖・三養基地区の地域(街)づくりの一つの目標を「障害者の方々が地域で生きていく上で必要な環境作り」と位置づけ、共に生きるための思いやりと支え合い精神の醸成、人としての尊厳の追及(チャレンジ生活と意思決定支援)、くらしに必要な資源の充実(量と質の確保)等にスポットを当てた地域研修会を開催していくこととしました。令和五年度には、あの大事件に巻き込まれながら、かろうじて命を取り留め、その後施設を退所、現在は地域のアパートで多くの支援者に支えられながら自分らしく生きる重度障害者の「尾野 一矢さん」、今回幸運にも一矢さんご本人とその生活に寄り添う支援者の方の同伴が決定し、事件から7年以上が経った今の暮らしぶりや様々な思いを、ご両親(尾野様ご夫婦)とともに語っていただく機会を得て、地域研修会(令和五年度地域研修会は、九州ろうきん NPO 助成事業)を開催し、大変多くの方々にご参加をいただきました。

人としての尊厳の追求や地域での新しい暮らし方について考察を深めることが出来ましたこと、ご支援いただきました皆様方に心からお礼を申し上げます。

鳥栖・三養基地区総合相談支援センターキャッチでは、基幹型の役割として今後も「誰もが住み易い街づくり」に向け、地域研修会等の定期的な継続開催を考えております。

皆様方のご理解とご協力を心からお願い申し上げます、新年のご挨拶と致します。

年賀状じまいのお知らせ

あけましておめでとうございます。本年も沢山の年賀状をいただきありがとうございました。

このたび当事業所ではデジタル環境の充実、環境保全の観点から年賀状によるご挨拶を控えさせていただくことといたしました。何卒ご理解賜りますとともに、今後ともご厚誼の程よろしくお願い申し上げます。

地域研修会報告

第2回 鳥栖三養基地区地域研修会(九州ろうきん NPO 助成事業)

令和5年11月16日開催

<第1部> 講演会

講師として福岡市で強度行動障害者の支援をされている「障がい者地域生活・行動支援センターか〜む」の森口哲也様をお迎えし、“福岡市における重度障がい者の地域生活にむけての取り組み”をテーマにご講演いただきました。

福岡市独自の取り組みである強度行動障がい者集中支援事業を行なっている「か〜む」では、集中支援事業と移行型グループホーム事業として一定期間、強度行動障害のある人を受け入れて生活の支援を行ないます。その間は「か〜む」で生活しながら、日中は通所施設に通い、休日は行動援護等を利用して外出をするなどして過ごします。支援を通して、特性に応じた支援のあり方を分析、検討を行い、「か〜む」卒業後の新たな生活の場につなげていきます。

強度行動障害は先天性の障害ではなく、何らかの障害をベースとして環境との不適合で生じる二次的障害です。そのため、環境を整えてその方にあった対応を行なうことで行動問題の軽減を図ることが重要になります。個々の支援のあり方を福祉サービス事業所と共有することで福祉サービスの利用機会の拡充を図ります。

「か〜む」では強度行動障害のある方を地域全体で支援することを目指しています！



<第2部> グループワーク

<Mission>

あなたはグループホームの職員です。
今回、重度の障害がある方の利用希望がありました。
受け入れを断る？そんな選択はいたしません。
受け入れをするために何が必要か、どうするといいか、考える時です！

と、ということで、グループワークの始まりです。(以下は架空の人物、架空のグループホームです)

【利用者情報】

● みやき とすお/22 才/知的障害(療育 A)・自閉症
/区分 5

・本人が19才の時父他界。現在母と2人暮らしであったが、自宅での大声や本人が生活介護に行かないことで母が疲弊し、レスパイトの目的で本人入院中。

・入院前から眠剤は服薬していたが、昼夜逆転、中途覚醒があった。

・入院中、仙骨部に発赤ができたため、体圧分散マットを寝具として使用。発赤は改善したが、早朝の放尿と毛布破りが多く見られた。毛布をキルティング毛布に変更すると朝まで眠る日が増え、放尿、毛布破りが減少した。

・緑色、茶色を好む。

【グループホーム情報】

● 法人名/NPO 法人 火の鳥 日本
事業所名/

グループホーム レシーブ 鳥栖

建物/2階建て(各階7部屋)計14床

・現在4名利用中。2名は重度知的障害。2名は軽度知的障害。4名とも2階に居住。それぞれの利用者はグループホームの環境に慣れており比較的穏やかに過ごすことができている。夜間は

4名とも朝まで中途覚醒はない。

※グループワークの内容などもっと詳しく知りたい方はキャッチのホームページをチェック！



Question1 部屋はどこに
 とすおさんの部屋をどこにするか、グループホームの見取り図を確認しながら皆で意見を出し合う。他の利用者との兼ね合い、トイレの位置など配慮すべき点に注目しながら決めていく。難題である…

ここで登場！



カードを上手く使いこなすのだ！！

ここで登場！



お金は大事…

Question2 必要な物を揃えよう
 とすおさんがグループホームで過ごすために、必要な物、環境を整えていく。本人の部屋だけではなく、建物の内外と考える範囲は広い。本人の好みも取り入れながら、穏やかに過ごせる環境を作っていく。
 しかし、何をすることもお金が必要！！どうする！？

Question3 とすおさんとどう関わる？
 とすおさんの具体的な支援方法を考えていく。スケジュールの活用や声掛けの仕方など細かい部分も考えていく。問題行動がでないようするにはどう関わるとういのか。現場で従事している方たちの意見は尊い…

ここで登場！



新たな発見！



話は終えた…
 それぞれのグループでとすおさんを受け入れるイメージはできあがった。準備は整いつつある。さてさて、他のグループはどんな話になったのか。
 !!こんな視点があったとは!!

4つのカードにはそれぞれこんな意味合いがあった…

 人	 物・金	 情報・相談	 連携・共有
---	---	--	---

この4つが揃った時、たとえそれが完璧でなくても重度の障害がある方の受け入れは可能である。
 そして、何よりも大切なのは寄り添い支援をしていく「覚悟」であることを私達は学んだ。

○鳥栖市・みやき町・基山町・上峰町にお住いの、障害者本人、障害のある方を支えている家族及び支援者からの相談をお受けします。障害の種別、手帳の有無は問いません。相談は無料です。
 <相談窓口開設時間> 9:00~18:00(月曜日~金曜日) 9:00~17:00(土曜日)
 開設時間以外でもご相談をお受け致します。事前にご連絡ください。
 特定非営利活動法人 総合相談支援センターキャッチ 電話:0942-87-8956 FAX:0942-85-9003
 Mail: so-sodan@tosumiyaki-sodan.or.jp URL: <https://tosumiyaki-sodan.or.jp/>

編集後記
 熱い熱い研修
 でした。勢い
 が伝われば幸
 いです。龍頭



くまさんとわたし
ひとりではできないこと
ふたりならできる

かなしみがふかいほど
よろこびがしみるから
あたたかいつないだてが
どんなに
どんなに
たいせつかをおしえてくれる
いつかなくなる そのひまで
ずっとつないでいたいから
きょうも ほら
いっしょにあるくみち

はる さわやか
かぜさん とおりぬけ
なつ さんさん
あき はらほう
おひさま はらほう
はっぱたちのダンス
ふゆ めくめく
こたつでみかん



文・イラスト: なかにしじゅんこ

能登半島地震で被災された皆様へ

令和6年1月1日に発生しました能登半島地震により、犠牲となられた方々におくやみを申し上げますと共に、被災されたすべての皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

また、被災地域の皆様の安全の確保と一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。